

平成29年度 第4回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成30年3月30日（金） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：鎌田和弘、木村滋、坂野俊樹、刀禰清貴、三島弘世、秋松等、  
阿部政邦、富田直和、長江隆一、大野博子、佐藤馨、東間和浩、  
竹浜俊一

町 長：岩村町長、吉田副町長、萬谷副町長、田中教育長、総務課長、  
財務課長、地域振興課長、総合病院事務長、企画振興課長、  
企画振興課参事、企画振興課企画係長、企画振興課企画係

傍聴者：なし

【要旨】

- 第2期八雲町総合計画実施計画策定について説明し、質疑を受けた。
- 八雲町公共施設等総合管理計画実施計画について説明し、質疑を受けた。
- 平成30年度予算の概要について説明した。

【内容】

1. 開会

2. 辞令交付

3. 町長挨拶

4. 会長・副会長選任

会 長：八雲商工会長 坂野俊樹

副会長：八雲観光物産協会長 平野百合子

5. 議事

(1) 第2期八雲町総合計画実施計画について

資料1について企画振興課企画係長より説明。

・質疑

(委 員)

- ・18ページに記載されている「高齢者スポーツ施設利用助成事業」は、町長が以前おっしゃっていたスキー場やプール、パークゴルフ場を一体としてシー

ズン券を発行するということと関係しているのか。

( 町 )

- ・委員おっしゃるとおり、町長が新年度から取り組もうとしているパークゴルフ場、プール、スキー場の3施設共通券である。対象者は65歳以上の方とし、10,800円で施設を使用できるという内容となっている。

(委 員)

- ・利用者は10,800円を支払えばよいということか。また助成というのは、町の施設に助成するということか。

( 町 )

- ・施設利用にあたっては10,800円いただく。正規金額との差額分は町で負担し会計上で精査する。

(委 員)

- ・17ページに記載されている「病院案内看板新規設置事業」について、町内外の方から案内看板が見つらいということで話を聞いている。国道から総合病院へ向かうときの案内看板や道道から総合病院へ向かう時の案内看板が小さく非常に見つらいと思う。町民でもわかりにくいのに、町外からの方はもっと分かりにくいと思う。

( 町 )

- ・委員おっしゃるとおりである。現在の看板は仮設で設置しており、国道側にある看板を道道側に設置する予定である。国道側の看板については、来館される方に配慮した看板を設置していきたいと考えている。

(委 員)

18ページに記載されている「高齢者等入浴料助成事業」について、

- ・市街地に唯一あった公衆浴場の昭和湯が閉館となり、今後について行政としてどう考えているのか。
- ・昭和湯の閉館に伴い遊楽亭へバスが配車されているが、それは遊楽亭が配車しているのか、それとも行政からお願いして配車しているのか。
- ・入浴券の助成状況について教えていただきたい。

( 町 )

- ・1つ目のご質問について、行政としては公衆衛生の確保、またご遺族からのお話もあり、跡地の利用について現在協議中であり、時間がかかると思う。
- ・2つ目のご質問について、遊楽亭のご厚意によって配車している状況である。
- ・3つ目のご質問について、担当課がきていないため、後日委員へお知らせする。

(委 員)

- ・18ページに記載されている「高齢者スポーツ施設利用助成事業」について、

65歳以上の方が助成対象となっているが、健康増進や生活習慣病の予防する観点から65歳という線引きをもう少し下げてもよいかと思う。

- ・18ページに記載されている「高齢者等入浴料助成事業」の利用券について、1回あたり200円の助成がされる制度となっているが、単純に予算514万7千円を割り返すと2万4千人ほど利用できるが、さほど利用されていないのかと思う。根拠としては、施設までの交通手段の持ち合わせがないということにある。交通手段の確保が難しい状況の中で、単に入浴の助成だけでよいのかよくないのかを考える必要がある。助成の実績と入浴の助成に合わせた交通の助成についてどう考えているのか。

( 町 )

- ・2つ目のご質問について、予算と利用率の関係は委員ご指摘のとおり、これまでの実績を統計的な形で分析し予算を立てており、利用率は非常に低いわけではなく芳しくはない。熊石地域では、一部送迎も行っているが決して高いという状況でもない。また入浴関係だけではなく、交通関係について町全体として捉えなければならないが、この点については企画振興課長より説明します。
- ・入浴にかかる交通手段の確保というところであるが、町全体で公共交通の在り方を考えていかなければならないということもあり、平成31年度以降に計画を策定していきたいと考えている。一方で福祉タクシー助成事業で実施できるのではないかという意見もあるので、計画を策定する際に考慮して方向性を出していきたいと考えている。
- ・1つ目のご質問について、実際に運用してみて65歳以上の方のこの制度の利用状況や施設の利用状況を踏まえ、今後検討していきたいと考えている。

(2) 八雲町公共施設等総合管理計画実施計画について

資料2について行財政改革推進室推進係より説明。

・質疑

( 委 員 )

- ・30年間の長い計画ということもあり、人口動態等の社会情勢で変わっていくかと思うが、5ページで目標削減率を定めているが庁内でどのような議論をして定めた目標なのか教えていただきたい。

( 町 )

- ・本計画を策定にあたり、町内の公共施設の建設年度や延床面積等をすべて洗い出し、施設ごとに今後どのように管理していくのかを庁内策定委員会内で検討したところである。人口推計で30年後には人口も大幅に減少することやコンパクトシティを目指す中で集約化・統廃合を図っていくことを視野に分類ごとに集計している。行政として30年後というのは推計しづらい部分もあるが、目標に向かって施設を集約しながら維持していくということで計画を策定した。

(委員)

- ・本庁舎の建替えについてこの実施計画では触れられていない。合併特例債が10年間延長され、その内3年間現在経過している。利用期間が残り7年間と限られている状況で、平成34年までの実施計画で触れられていなく、残り2年間で計画・実施することは短い期間だと思う。ここで触れられていない理由を教えてください。
- ・人口動態が予測より早まっており、合併時を100%とすれば、平成29年度時点で現在は85%となっており、10年間ほどで15%減っている。30年間で考えれば合併時の60～65%の人口となり、さらに国立病院の閉鎖や養護学校の移転があり人口減少が進むが、このような現状も把握した上で検討しているのか。

(町)

- ・本庁舎の建替えについて、総合計画の中にも記載されている。現在庁内では本庁舎の建替えに向けた検討を平成30年度から始める。合併特例債と併せて本庁舎の移転について議論されるが、合併特例債が10年間延長され、さらに5年間延長されると平成29年度中に決定されている。まだ新町建設計画の変更はしていないが、合併特例債を使える期間が5年間伸びたことで平成37年度までだったのが平成41年度まで使えることとなり、平成41年度を視野に入れながら、また国立病院や養護学校の跡地を含め総合的に移転を考えていきたい。
- ・人口推計について、30年後は1万人を切ると考えている。10年後の人口も1.5万人を目標に掲げているが、社人研の推計からも厳しいと考えている。その中でその時の自然減や就職のため町外へ転出する方など年間トータルで100人以上減っていくということが現状である。この先食い止めるために人口動態や総合戦略での施策、子育て世代への支援施策をかみ合わせながら、公共施設の統廃合を今後考えていかなければならない。

(3) 平成30年度予算の概要について

資料3について財務課長より説明。

- ・質疑なし

6. その他

(事務局)

- ・前期委員の皆様にご協議していただいた第2期総合計画の印刷製本が終わったので、配布させていただく。また次回の総合開発委員会は6月下旬を予定している。

7. 閉会